

当院では様々な医療機器で検査、画像診断を行っており、患者さまの早期診断・治療に努めています。今回のさくら通信では、主な検査機器をご紹介します。

CT Computed Tomography (コンピュータ断層撮影)

CTはX線が人体を通り抜け吸収される現象を利用して身体の断面を画像にする検査です。当院では64列マルチスライスCTを導入しています。この64列マルチスライスCTは5~6秒の息止め1回で胸腹部の撮影が可能です。

👉 特長

- 原則、予約不要です。
- 整形外科領域ではX線撮影でわかりにくい微小な骨折も診断可能です。3D画像を作成し立体的に骨折部位を見ることが可能です。
- CTに搭載されている被ばく低減のソフトを利用し医療被ばく研究情報ネットワーク (J-RIME) による診断参考レベル2020に準じたX線量で検査を行っており、X線被ばくについても配慮しています。



MRI Magnetic Resonance Imaging (磁気共鳴画像)

MRIは磁気と電波を利用して脊椎や関節、頭部の血管を撮影する検査です。検査は部位によって異なりますが、30分~45分程度かかります。そのため予約制ですが、お急ぎの方や当日検査希望の方には、できるだけ柔軟な対応を心掛けていますのでご相談ください。



👉 特長

- 放射線の被ばくの心配がありません。
- 当院のMRIはオープン型 (左右が開けている) そのため一般的なトンネル型のMRIと異なり検査中の音も小さく、狭いところが苦手な方や小さなお子さんなど付添いが必要な場合でも検査が可能です。

👉 注意

- 検査の制限がありますのでご相談ください。
- 妊娠されている方
 - 手術等で体内に金属がある方 など

CT, MRI 撮影のみの対応も可能です。

- 他の病院に通院しているけど、検査までに日にちがかかる。
- かかりつけのクリニックでは検査できない。 など

医療機関からの紹介状があれば対応可能ですので、ぜひご相談ください。



超音波検査

超音波検査は被ばくの心配なく手軽に行え、正確な診断ができる検査です。当院の超音波は、2020年7月に新しい機種に更新されました。以前の機種と比べると画像が明るく大きくなり、大変診断しやすくなりました。またこれまでの腹部臓器、甲状腺や乳腺の検査に加え、新しい機種では血液の流れを見るカラードップラーを用いて検査が行えるようになりました。

こんな診断ができるようになりました

①頸動脈の狭窄、動脈硬化の診断

内頸動脈の壁肥厚(へきひこう)や狭窄を実際の壁の厚さや粥状変化の具合、動脈の流速を測定し判定します。労災の二次検診にも対応しています。

②下肢静脈開存具合

下肢静脈瘤の術前に必要な検査です。これまでは市民病院で検査を受けてもらっていましたが当院でも可能になりました。

③心エコー

水曜日の午後に向出大介医師が担当しています。心臓の動きや血流を測定することで、弁膜症(心臓の弁の逆流や狭窄)、心筋梗塞、心筋症(拡張型心筋症や肥大型心筋症など)や心不全などを評価、診断します。



内視鏡検査

当院の内視鏡は2019年12月から現在の機種に変更となり、上部消化管検査、下部消化管検査に威力を発揮しています。具体的には以前の機械と比べ画像が明るく鮮明になり、細かい病変も発見することが可能になっています。

また今までは白色光観察しかできませんでしたが、きょうたいこうかんさつ特殊光観察や狭帯光観察が可能となりました。そのため、ポリープや早期癌を周辺から際立たせることが可能になり、より精密な検査ができるようになりました。



胃癌検診で要精査になった方に対し、二次検査としても対応しています。予約なしでも、食事をしていなければ即日対応できます。



大腸癌検診で要精査になった方に対し、全結腸内視鏡検査を行っています。事前に、検査食や下剤の飲み方、ポリープ切除術などの説明を受けて頂く必要があります。木曜日限定で行っています。

機器のこと、検査については
気軽に担当医師や看護師にご相談ください。

外科 中村寿彦

